

義肢装具自立支援学科・分野で実施している海外研究者を対象としたトレーニングセンターに関する研究(第2報) — 台湾における義肢装具国家資格制度創設への支援 —

新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科
阿部薫, 東江由起夫, 江原義弘, 真柄彰, 笹本嘉朝
須田裕紀, 前田雄, 大沼雅之, 高橋素彦, 佐藤未希
國立台北榮民總醫院
詹瑞棋, 劉文隆

【背景】

本学がアジアとなることを目指し,平成24年度から学長裁量研究費により「義肢装具自立支援学科・分野で実施している海外研究者を対象としたトレーニングセンターに関する研究」が指定研究とされた。これは台湾における義肢装具国家資格制度創設に関して,新潟医療福祉大学モデルを導入し,アジア地域における主導的立場を確立することを目的としたものである。今回は指定研究として3年目を迎えた26年度の活動について報告する。

【方法】

現在,義肢装具に関する教育制度や資格制度のない台湾において,医療サービスの向上を目指すためには人材育成が喫緊の課題として指摘される。そのためには法的整備が必要不可欠であるため,先行事例としてわが国の法律や医療制度,また本学の教育カリキュラムや運用方法などに関する情報提供を行い,現在台湾で検討されている関係会議等に資することを目指している。

26年度の活動として,義肢製作セミナーの実施,学術交流協定に基づく臨床実習生/大学院生の台湾への派遣,学術交流協定に基づき台湾の医師が本学博士課程を受験,台湾関係省庁連絡会議(準備会議)への出席,専門学科設立予定の國立陽明大學にて学術交流協定(MOU)の打ち合わせ,台北駐日経済文化代表処(実質的な大使館機能を持つ)との打ち合わせ等を行った。

【結果】

これら一連の活動のなかで,特に台北市の國立台北榮民總醫院で行われた義肢製作セミナーを取り上げて紹介する。

これは平成25年に新潟医療福祉大学と台湾最大の医療機関群である國立台北榮民總醫院との間で学術交流協定が締結されたことに基づき行われたものである。このプログラムは将来的に,台湾で教育や免許制度が創設される際の,たたき台となることを想定した内容であった。参加者は国立病院の技師だけではなく,広く技術を広める目的で民間製作所の技術者も台湾各地から参加した(国立病院職員5名,民間製作所

社員5名)。

セミナーは「2014年度新潟医療福祉大学・台北榮民總醫院学術交流 義肢装具教育プログラム 義肢分野【大腿義足学/大腿義足学実習】」と題し,平成26年8月25日から9月12日まで3週間にわたって東江由起夫教授が担当した。本学義肢装具自立支援学科の開設以来,改良を重ねてきた授業内容をベースとしたものであるため,高い専門性と実践的な内容を併せ持ち,かつ効率良く実施された。

内容は,講義として大腿義足概論,股関節/膝関節の解剖学・運動学,IRC(坐骨収納型)ソケット概論,コンプレッション(ソケット内圧)値の計算,アライメント理論,義足膝継手/足部等について行われた。実習として採寸/採型,陽性モデル製作/修正,チェックソケット成形,ベンチアライメント組み立て,スタティック/ダイナミックアライメント調整等が行われた。単元毎に試験を実施し,最終合格者には本学と同醫院が認証する修了証が授与された。なお採型/採寸から義足製作,患者への適合チェックまでのプログラムを2回行い,理論と技術の定着化を促進した。



図1. 大腿義足セミナーにおける実習の様子

【結論】

義肢装具国家資格創設のためには,専門大学等の教育機関の設立を先行し,資格に関する法整備を行うプロセスには相当時間が必要である。このためわが国の技能検定制度を手本として,同様の制度を先行して運用する計画も進んでいる。何れのプロセスにおいても,専門知識と技術の醸成には時間を要するが,ここに至りその第一歩が開始された。引き続き次年度以降にも,義肢および装具のセミナーを台湾または本学にて実施する予定である。

【謝辞】

本研究は平成26年度の新潟医療福祉大学学長裁量研究費により行われた。